

決 裁	市 長	副市長	教育長	部 長	課 長		郷土資料館

会 議 報 告 書 (概要)

会 議 名	平成31年度第2回白井市郷土資料館運営協議会会議						
場 所	白井市文化センター2階 研修室			日 時	令和2年2月7日(金) 15:30~16:50		
報 告 者	郷土・プラネタリウム班	職・氏名	主査補 松丸 葉子				
出 席 者	(委 員) 倉田委員(会長) 古里委員(副会長)・鈴木委員・横山委員・小林委員・森山委員・杉原委員(7名)						
	(事務局) 石田館長(センター長)・生涯学習課 戸谷主査 酒井主査補・松丸				傍聴者	1名	

1. 開 会

2. あいさつ

○会長より

本日は平成31年度の事業報告・令和2年の事業計画に加え、教育振興基本計画についての審議もありますので、早速議事に入らせていただきたい。

○郷土資料館長(文化センター長)石田より

・教育大綱が令和2年度に終了することから白井市第5次総合計画後期基本計画の策定期間に合わせて令和3年度に新たな教育大綱を策定する。現在この教育大綱の策定に合わせて教育振興基本計画を作成しているところである。

・本日の会議は議題の内容が多いですが各委員の皆様には十分なご指導を賜りよりよい会議にさせていただければと存じます、最後に今後とも当館の運営に関して益々ご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げ挨拶と変えさせていただきます。

○過半数以上の委員出席により「本会議が成立」及び審議会等会議公開の指針に基づき「公開会議」であることを報告。

3. 議題(議長:倉田会長)

白井市郷土資料館設置管理条例施行規則第10条により、会長が会議の議長となる平成31年度事業状況報告について・・・資料に基づき事務局(郷土資料館)より説明
審議結果・・・大きな指摘事項等はなかった。

(1) 平成31年度事業状況報告について

[質疑応答]

委 員：最後に説明のあったとき土器縄文体験とありますが、図書館合同というのはどういう内容であったのか。

事務局：図書館と合同で行った事業になる、図書館で縄文の展示や、県の事業に申込みをして勾玉づくり、天候により火おこしは出来なかったが、縄文しおり作りを行った。図書館の職員と郷土資料館の職員両方で行った事業となった。

会 長：図書館が県の教育振興財団文化財センターに事業申し込みしたということか。

事務局：はい。

会 長：図書館で何か縄文時代に関する催しがあったのか。

事務局：本来であれば、10月に県との連携事業で図書館と合同で行う事業であったが、台風で中止となったため、その代替えとして、県が通常行っている、同様の事業があるので県に申し込んで行った。

会 長：縄文体験は県の教育振興財団からの提案か。

事務局：県からの提案である。

委 員：市の文化祭で、中ホールでは絵画、写真などの展示があり、研修室では華道の展示などがあったが、3階に行ったら何も展示しておらず、「ただいま準備中」と書いてあったと思うが

事務局：文化祭に関しては郷土資料館ではなく生涯学習課の担当になる。

委 員：折角、多くの人がセンターを訪れているのに展示室が何も展示されてなく、それでショックを受けた。準備をしていますというのは、考えがずれているのではないか。大勢の人が来ている時に見せるのが本筋じゃないかなと思うが、時期を考えて年間計画をきちんと立てるべきじゃないかなと思うがどうか。

事務局：この時期の郷土資料館の使用については、生涯学習課の担当になっているので生涯学習課の方から回答する。

生涯学習課：ご指摘のあった点は毎年11月に開催している白井市民文化祭の関係で、文化センターの中ホールや研修室を利用して写真の展示、華道の展示をしている件での指摘かと思う。この市民文化祭での郷土資料館の展示室の中の展示については、基本的にそれほど大きく変えてないが、(郷土資料館の通常の)展示は行っている。郷土資料館内の入り口付近については、毎年11月第2週に幼稚園の展示を行い、ギャラリーも展示する関係もあり、11月の第1週は資料館展示室の入り口部分が一部展示されていない状況になっている、今年度についてはギャラリーでの展示を使う予定もあったが、ギャラリーの展示が取りやめになり、中途半端な展示になってしまった。〇〇委員が見た際に展示が準備中になってしまい、実際見るものがなくてという状況が発生してしまったところがあったかもしれないが、その部分については来年度の展示の様子をみながらまた調整したい。

委 員：はい、今後は注意していただきたい。

委 員：文団協の文化祭でも抜ける人が多く、また来年、大分減ると思われる。

生涯学習課：11月の文化祭と郷土資料館の展示のあり方については、文化祭のあり方も含めて状況をみながら調整していきたい、申し訳ないがもう少し時間をいただきたい。

委 員：一般の人達は、文化班がやっている仕事とは思っていない、資料館がやっていると思い、白井の歴史を見ようと思って来ても、展示がなく、不満で帰って行った、こういうことがないようにしていただきたい。

会 長：資料館も文化祭とうまくリンクした活動をすれば、入館者数の増加にもつながるのではないか。その他について質問はあるか。

委 員：今年度の事業で、夏に火縄銃体験とあるが具体的に教えていただきたい。

事務局：火縄銃のレプリカを購入したので、その火縄銃を体験してもらうというものである。

委 員：それは既製品か。

事務局：既製品で、教材である。

簡単なキャプションを作って説明をし、展示中の本物との違いを説明しながら体験してもらった。

会 長：牧との関係も説明したのか。

事務局：説明した。

委 員：火縄銃のレプリカを購入したと先ほど聞いたが、それは今年度の購入か。

事務局：今年度の購入である。

委 員：資料購入はこの項目の中では見当たらないが、どこに該当するのか

事務局：まだ作成していない、次の会議(年報)で報告する。

委 員：毎年予算で購入していくのか。

事務局：郷土資料館の備品購入の枠が多少あるので、その中で購入している。

会 長：他に質問はないか。なければ、次の令和2年度事業計画案の審議にはいる。

満場一致で了承。

～ 以上で事業報告についての質疑終了 ～

令和2年度事業計画について・・・資料に基づき事務局(郷土資料館)より説明
審議結果・・・大きな指摘事項等はなかった。

(2) 令和2年度事業計画について

[質疑応答]

会 長：展示に県博物館・図書館連携事業巡回展、オリンピック・パラリンピックのパネル展が新たに加わったということか、あとは通常の事業とみて良いか。令和2年度の事業計画について質問はあるか。

委 員：企画展について、「戦前戦後の白井の暮らし」となっているが、簡単に具体的に教えていただきたい、あと(仮)と付いているが何か変わるのか。

事務局：タイトルは(仮)なので、変わる予定がある。

委 員：展示の内容は変わらないが、タイトルが変わる予定があると、その辺を教えていただきたい。

事務局：オリンピックの展示になるので、オリンピックを挟んで戦前戦後の暮らしの違いを身近な道具の変化で紹介したいと考えている。物・人が大きく変わるのは戦前戦後なので、わかりやすく戦前戦後の白井の暮らしと仮のタイトルを提示した。

委 員：というと戦前戦後のオリンピックになるのか。

事務局：オリンピックだけでなく、白井の人々の暮らしを考えている。

委 員：道具、生活用品などを企画展で、展示して行くということだが、調査は色々しているかと思われるが、具体的にどういう違いがあるのか。

事務局：アイロンは火熨しから変わる、という感じで昔と今の移り変わりや、素材の変化に注目して展示していきたい。

委 員：郷土資料館にないものは借りるのか。

事務局：何を借りるかは考えていないが、できるだけ館内にあるものを展示したい、どうしても足りない場合には、借りることも検討したい。

会 長：衣食住に関わる暮らしの変化を見るということか。

事務局：衣住になる。

会 長：郷土史講座3回はどのような内容か。

事務局：郷土史講座は通年3回行っているが、まだ具体的には決まっていない。

会 長：その他、質問があるか。

委 員：前年度の取り組みを考えて毎年計画を立てていると思うが、アンケートや要望などを取り入れて企画をしているのか、新しい取り組みを考えているのか。

事務局：体験教室に関しては、アンケートはとっていないが、今年度初めて開催した体験フェスタでアンケートをとったところおおむね良好な意見をもらったが、具体的に何がして欲しいなどの意見はなかった。毎年、体験教室をやっているが、まが玉づくりなどは、大変好評で子供たちが体験できる数少ないプログラムのため、なくすことは考えていない。体験フェスタの中で行った組みひもつくりの体験は評判が良く、今後、体験教室として増やすことも検討している。

会 長：組みひも体験に関してだが、市内で組みひもを教える者がいるのか。

事務局：組みひもは、以前に専門職員が他市で行った体験講座に参加して習得したものを、職員と非常勤に教え、それを子供たちに教えた。

委 員：常設展のアンケートの結果はどうだったのか。

事務局：常設展のアンケートは取ったことはない。

委 員：今後取る予定はないのか、アンケートを取ることは、重要な意見を聞けると思うので、検討いただきたい。

事務局：夏に企画展をするときに合わせて準備する。

委員：企画展に合わせてじゃなく早めをお願いしたい。

会長：その他、質問はあるか。

委員：アンケートを取って何を求めているのかの、そういった研究が不足しているのではないか。何事もアンケート取って反省しないというのは、毎年同じ企画でなんとか済ませばいいという消極的に取られてしまう。できるだけ、多くの意見を取り入れ、何ができるか考えたほうがいい。

会長：アンケートを事業ごとに取ってないのか。

事務局：講座に関しては全部アンケートを取っている。来年度はアンケートをしていない体験教室もアンケートを検討する。

会長：これで、平成31年度の事業実施報告と令和2年度の事業計画案の審議を終了し、次の教育振興基本計画の審議に入る。

満場一致で了承。

～以上で、事業計画についての質疑終了～

教育振興基本計画について・・・資料に基づき事務局(郷土資料館)より説明
審議結果・・・課題等の修正を行う。

(3) 教育振興基本計画について

[質疑応答]

会長：この施策について質問はあるか。

会長：前々から資料館所蔵資料の公開について、この委員会で何回も取上げられ、資料公開および資料保存の観点から、資料のデジタル化を是非進めて欲しいと委員から意見が出ている。教育振興基本計画には現在実施している事業のみで、課題とその解決策がない。その辺、事務局としてどう考えているのか。

事務局：現状では、5ヶ年の中に全く新規のものを入れるのは難しい。

会長：現状の体制では、資料のデジタル化は到底できない。前も委員会で出たが、委託という話もあった。デジタル化への第一歩を踏み出さないと、現状のままになる懸念がある。博物館・資料館における資料のデジタル化と公開はこの「郷土史の発信と継承」という意味に合致しているし、デジタル化した場合は資料の保存にもつながる。現在、原本をコピーし提供しているようだが、デジタル化すれば資料の劣化も防げる。ぜひ検討していただきたい。

委員：「郷土史の発信と継承」が一番重要である。郷土史の継承というのも今までのものじゃなくて、来たものをどのように見せていくかと、新しい研究成果をどう出していくかということの方が欲しい。「何があるかわからない、情報が得られない」ということは先ほど会長からも、デジタル化、ネットでの発信というのがあったかと思うが、広報に毎月情報は出しているのか。

事務局：出してない。

委員：すべての媒体をどう展開していくかということが大事であり、「何があるかわからない・情報が得られない」それに対し何をどう発信していくかということ、今まで通りでなく常に新しい研究を出していくというのが前提であり、常に発信していくことが一番関心を持ってもらえる、模索しますとなると模索で終わってしまう。

委員：現状と課題とあるがほとんど現状だけで課題が書いてない、現状と課題となっているならバランス的に現状を半分、課題を半分くらい表現した方がいい。何があるかわからないとかそういう現状は認識しているが、それをどうしていくのかというのがたった一行発信方法を模索しますでは、予算がなければできないということはあるが、具体的に課題として考えた方がいい。資料の調査収集に関しても同じでシステムの構築が重要になるというだけで、どういうふうにするのか見えてこないなので、少し検討していただきたい。

会長：指摘があったように現状に対し、課題と解決策を明記すべきだろう。

委員：郷土資料館のHPを見たら白井の豆知識とあるが、最近更新しているのか。

事務局：今度HPを更改する予定で無くなる予定である。事業報告できるような形のトピックスを行う予定である。更新してないのは豆知識だけで他はしている。

委員：資料館に足を運んでもらうのもそうだが、ネットでどれだけ効果を出していくかという両方をリンクしていけば資料館に足を運んでもらえるのではないか。複合館であるから郷土資料館の認知度が低いというのは、複合館であるからこそ認知度が高く持っていけないと、図書館に来ている人たちがどうしたら3階に来てくれるか、何があるかわからないという消極的な人に向けてどうしたら伝わるか、そういう人たちにどういうふうに伝えるのか、あらゆる手段をどう展開していくかというのが大事である。そのためには発信も大事だが、研究や資料収集も大事である、また同じかと思えば足が遠く。常設展の展示物は何回か変えているのか。

事務局：増えたり変えたりしている。

委員：それに対し、広報しているのか。

事務局：していない。

委員：そういったことが大事ではないのか。

事務局：図書館との連携事業であるが、今年度はどき土器体験を開催しており、その際、郷土資料館に展示してある土器の見学ができることをPRして郷土資料館へも誘導できた。近年のことであるが複合館の強みを活かした、図書館・プラネタリウムとの合同事業は開催している。

委員：自分のしてきた経験をふまえて思うが、現状でこのスタッフでこれだけの事業やりこなすのは、難しいと思われる、鎌ヶ谷市では文化財に興味のある教員を3年間郷土資料館に出向させている。教育普及事業について、例えば郷土資料館に教員を一人増員できれば、子供たちの教育普及事業は教員に任せ、仕事を分けてやったらお互いに仕事の効率が上がるのでは。

会長：緻密な調査研究をおこない、博物館の基本機能を実施するには、スタッフの充実が欠かせないので、資料館に必要な人数を配置して地道な活動をしていただきたい。

センター長：その点については人事も含めて前任者も言うところは間違いなく言っており、市の方向性として定員管理上人を増やせず、逆に減らしているところがある中で、複合施設でしかも必要なところに専門的な人を配置するのは現状難しい、教職員というのも、市が支払うので、定員管理や予算の部分で厳しい。この人数で足りていないことも重々承知しているので、引き続きその要望は間違いなく伝える。

会長：教育振興基本計画について質問がなければ審議を終わる。なければ事務局へ。

～以上で、教育振興基本計画についての質疑終了～